

1 現状

◆県内市町村の計画策定状況

- 市町村内訳 全市(12市)3町 → 12町全村(12村)未策定
- 未策定の町村の状況(聞き取り)
 - ・県内町村、特に村では、男女共同参画の担当者がいない(総務担当等が兼務)
 - ・「努力義務」の計画は優先順位が低い

◆全国の策定状況

- 県の策定状況は全国ワースト2位(1位は北海道)
- 全国で策定が進んでいない道府県の特徴
 - ・「村」の割合が多い
- 村が多いのに100%策定済みの県の理由(聞き取り) 三重県他3府県
 - ・各自治体にある女性団体からの要望
 - ・熱心な有識者の首長への働きかけ

◆奈良県男女共同参画県民会議等委員の声

- ・「男女共同参画が進んだところもあれば、まだまだというところもある」
- ・「女性の活躍」は女性リーダーの増加等以前に比べ進んでいる。
- ・企業等の取組やLGBTへの理解等は随分進んだイメージはある
- ・全体的には、データにおいても、実感としても男女共同参画はまだまだ。
- ・夫は仕事、妻は家庭を守るという意識が、子育て不安の現状にも反映している

一方小さな自治体は

- ・男女共同参画の視点は、他者を受け入れる必要がある、小さな自治体にこそ必要
- ・村の標準家庭は、親世代と同居、子どもを預けて共働き。
- ・女性の就業率は村のほうが高い。

◆有識者の声から

●奈良県立大学 梅田准教授 (社会学)

<地域の課題>

- ・多様化する生き方や価値観、家族形態に、そぐわない地域のシステムや地域の人びとの価値観・伝統
- 若い世代の地域離れ、地域への不参加につながっている。

<今後必要な視点>

- ・人口減少の深刻な地域においては、多様な生き方の人々を受け入れられる社会環境の整備が必要。
- ・男女共同参画の視点が小さな村にこそ必要。
- ・計画策定に大事なのは、村のさまざまな人が一緒に考えて作ること。

◎「計画策定キャラバン隊」を組んで、村の関係者とともに、村の良さを浮き彫りにしよう！～関係有識者がタッグを組んで村の計画策定支援を提案～

- ・帝塚山大学 中川名誉教授(審議会会長) ・奈良県立大学 梅田准教授(県民会議会長、審議会委員) ・くらしと文化研究所 音田昌子(県民会議副会長)

必要な視点

- ・小さな自治体にこそ 「男女共同参画」「多様性」の視点が必要
- ・計画策定は地域にあったものにするため「地域の声」を入れる

令和元年度

天川村・十津川村
でモデル事業を実施
↓
策定手順書作成
(計画フォーマット)

令和2年度

他町村へ普及

2 取組の方向性

◎計画策定の推進のために

「地域に身近な男女共同参画計画」の策定のための支援

① まずは、規模の小さな村をターゲットに

② 村と協働し、村の関係者が集まり議論する場を提供

③ 村の「できていること」「できていないこと」を浮き彫りに

④ 村の現状と課題をふまえ、その村にあった計画策定

Point

大事ななのは、町村の計画作成作業を通し、町村の関係者が男女共同参画の視点に触れ、考え、その結果として形に残すこと

(令和元年度)天川村での計画策定の取り組み結果

キックオフミーティング
(6月12日(水))

- 村職員と県職員と有識者が集まり、計画策定の目的や進め方を共有
(出席有識者:音田昌子氏・梅田直美氏(奈良県男女共同参画県民会議委員))



中間検討会
(8月8日(木))

- 村の魅力や課題を調査(天川村人口ビジョン、村民アンケート結果、各種統計データ等から)
- 計画に盛り込むべき項目の検討を開始



計画策定会議
(10月2日(水))

- 村の魅力や課題の確認、計画の作成方針の検討、アンケート調査実施方法の検討
(出席有識者:梅田直美氏)
- 村民アンケート調査の実施
- 計画素案作成
- 計画素案について、村民代表を含めた検討
(出席有識者:梅田直美氏)

【計画策定会議メンバー】

- 自治会長(区長) 2名(男性・女性)
 - 女性団体 1名(女性)
 - 移住者 2名(男性・女性)
- 事務局:天川村住民課

- 村民の意見とりまとめ
- 計画案の作成



(計画策定会議の様子)

計画の完成

【計画策定会議でのご意見(一部)】

- この会議に呼ばれたことで男女共同参画について勉強した。
- 最近区の集まりでも男女協力する流れを感じる。
- 村は顔が見える関係があるから安心して子育てできる。逆につながりが強いので、役場に悩みの相談などはしにくい。
- 民生委員には女性が多い。逆に防災活動の女性の進出は進んでいない。(昼間家にいるのは女性が多いが、火事の際にうまく消火活動ができなかった)
- 計画を策定することで「村がどう良くなるか」を伝えることが、村民の関心を持たせるためには必要。
- 「男女共同参画」をとっつきやすい名前にするだけでも村民に広がる。